

# 箱根ジオパークへの思い

9月24日に「箱根ジオパーク」が誕生しました。ジオパークとは、火山をはじめとした歴史的な地球活動の遺産に親しむための公園であり、箱根ジオパークは箱根町、小田原市、湯河原町、真鶴町にあふれる山や海、滝、温泉といった美しい自然、旧街道や箱根関所などの歴史遺産を私たちが見て、肌で感じて、その魅力を再発見していくことを可能にする新たな土台と言えます。この箱根ジオパークの誕生に尽力した方々の中から、2人にその思いを語ってもらいました。

## 永続的に続いていくもの

箱根観光ガイド協会会長

若林宏光さん

— 認定されたことへの率直な感想を教えてください。

一年半ほど前から町の企画課や生命の星・地球博物館、温泉地学研究所の方々などとともにいろいろと煮詰めてきましたので、認定されたことはとてもうれしいですね。我々はガイド協会ですので、ある程度側面的な部分で、具体的にはジオツアーなどを通じてバックアップしてきたいですね。

## 地元の人にこそガイドを

— ガイドは認定基準の一つだと聞いています。民間の立場から箱根ジオパークを支えているガイドの皆さんはどういった活動をしていますか。

ガイド協会は観光協会が主催する、例えば旧東海道を案内するガイドツアーで、箱根の魅力を紹介してきました。



箱根ジオパークのガイドを目指して勉強中

話したら、盛り上がりなくなってしまうんですね(笑)。だから、温泉に入れることが火山の恩恵を受けているってことなんだ、といった感じでジオになんでもらいたいんです。あと、「大涌谷の黒たまごって珍しいな」とかね。

そのためのガイドができればと思うし、わらじ歩きツアーなどを箱根火山の歴史に結びつけていきたいと思っています。ガイド協会には23人のガイドがいますが、町に住むガイドは11人と、半分もいません。箱根は魅力のある所だけれども、その魅力を分かっている人が多くいます。だから、まず実際のガイドツアーに来て、2〜3回参加してもらいたいですね。

— 箱根ジオパークは見所がたくさんありますが、おすすめはどこですか。

おすすめの場所は旧街道です。ツアーではわらじで歩いて、石畳を踏みしめてもらっています。最近では少し減っていますが、よその修学旅行でもわらじ体験をしたいということで呼ばれることがあって、一緒に歩いたりもします。旧街道を歩くと関所に到着するんですが、途中のお玉が池にも歴史の話があるので、そういう場所でもジオの話を絡



められるんですよ。あとはやっぱり、火山を感じられる大涌谷です。噴煙もあるし、富士山が見えてロケーションもいい。箱根火山は生きているということを感じられますね。

## ジオを地域の起爆剤に!

— 最後に箱根ジオパークへの期待と想いを教えてください。

まず、箱根ジオパークという冠を付けた土産などが売りに出されて、名物ができたらいいなと思います。地元の産産を活気づけるものになってほしいです。おまんじゅうを石畳に見立てた「石畳まんじゅう」とかね(笑)。土地の雰囲気に合わせてお土産をジオと結びつけたいですね。あとは、将来的に多くのジオパークが誕生していくと思いますが、ジオパークの価値や品格は落としたくないなと思います。

国内の他のジオパークを見ていても、観光振興と自然を守ることの両立は難しいようです。これは箱根でも直面する問題だと思います。モラルやマナーの問題ですが、花をつんだりゴミを捨てたりしないとかですね。

## ガイドさんたちのお陰です

神奈川県温泉地学研究所

主任研究員 萬年一剛さん

— 認定されたことへの率直な感想を教えてください。

良かったですね。落ちることとはなかったらどうでしょう(笑)。ただ、ちゃんとした評価を受けて堂々と認定されたいとは思っていません。

自然のいいところは、やはり守っていかないと。この認定は、いいタイミングです。役場でも、自然保護の啓発やジオ関連の一貫したイベントを、各部署が歩調を合わせて進めてほしいなと思います。

自然のいいところは、やはり守っていかないと。この認定は、いいタイミングです。役場でも、自然保護の啓発やジオ関連の一貫したイベントを、各部署が歩調を合わせて進めてほしいなと思います。

## 「何で?」こそジオ

— 萬年さんは研究員としてどう関わってきたのでしょうか。

僕は地下(地質など)の専門ですが、ガイドさんたちに地形とかそちらの視点を持ってもらえるように、なるべく一緒に歩くようにしました。地表のことはあまり知らなかったんですが、一緒に歩く中で「ここは魅力的だなあ」と思ったりして、自身も学ぶところがありました。

箱根にどんなジオがあるか、それをガイドさんたちと一緒に考えていく、という姿勢でやっています。ここは何万年前からどうか、そういうことももちろん大事だけど、そういうのを勉強してもらえばかりだと、皆さん嫌になっちゃうでしょ。ガイドさんで面白くて、植物なら植物それ自体についてはよく知ってるんです。でも、何でそこに生えているのかをよく知らなかったりする。

「何で?」これがジオなんです。だからガイドさんにはそこを掘り下げてほしい。そういえば先日関所に行きました。あそこは平たい土地が狭まっている所で、すぐ横に溶岩があるから、あそこしか道を通



自然と人との関わりを実感できる箱根湿生花園

「人間の生活が火山の中で営まれてる」——そこが箱根ジオパークの良さです。だから、いわゆる自然だけじゃなく、人が作った(復元した)自然もアピールしていくといいのかな。

## 一緒に盛り上がり上げて

— 最後に、箱根ジオパークは今後どうあってほしいですか。

例えば、伊豆半島ジオパークでは、伊東市にあるNPOが企画しています。箱根はまだ行政主体の部分があるけれど、本来ジオは民が主体になるべきものなんです。住民がその魅力を分かって、盛り上がりつつも、の。だから、地元の人にこそ地元の良さを分かってもらいたいんです。 「ジオってこういうことなんじゃない?」とちょっと分かっていただけでも、それが観光客へのおもてなしの心につながって、箱根の魅力アップになっていくと思います。

箱根ジオパークは、認定がゴールではありません。

町民の皆さんには観光や教育などさまざまな視点から、新たな魅力の一つとして「箱根ジオパーク」を活用し、共に盛り上げてほしいと思います。

